

祝 京林大だより No.12



絵:京林大生 熊走君

『祝第1期生卒業！』

2年前に京丹波町の和知に開校した林業大学校第1期生17名が、さる3月10日只木良也校長から卒業証書を授与され、めでたく林大を巣立っていきました。

卒業生は、在校生や保護者・来賓の皆さま方から祝福をいただいて満面の笑顔でしたが、住み慣れた学舎を後にするときにはしみみりとした顔つきとなっていました。

卒業式終了後、和知駅前活性化委員会のみなさまが赤飯はじめ心のこもった祝いの食事を学生たちに振る舞って下さいました。地元の皆さまにはいつも学生たちがたいへんお世話になっております。深く御礼申し上げます。

学生たちは、森林科学・樹木実習・木材加工といった森林と木材に関する基礎的な知識をしっかりとマスターしたうえで、実際の林業経営を学習してきました。京都ならではの歴史的な木造建築などを見学して木の文化の勉強もしてきました。同時に林業に必要なチェーンソーはじめ高性能林業機械の操作にいたるまで基礎から高度な応用まで体系的にしっかりと学んできました。

昨年秋には3ヶ月間の事業体での体験研修（キャップストーン）を行い、年末から2月までは学習の総仕上げとして卒業研究に取り組み、みごとに完成させました。実に中身の濃い教育課程をすべて満了した若者たちです。



この4月から多くの学生は京都府内の林業関係事業体に就職します。京丹波の森林組合に受入れていただいた学生もいて、地域の森林での活躍をおおいに期待しているところです。出身地である宮城県、兵庫県、広島県の森林組合などに就職する学生もいます。

これから先、府内はもとより全国各地の林業の現場に飛び込んでいく学生たちにとって京丹波町でいただいた温かいみなさまとの思い出が何よりの心の支えになることでしょう。彼らの未来をみんなで応援したいものです。



自然を尊敬

出来る人へ...



林大初の卒業研究発表会

平成26年2月20日に和知林業センターにて、林業大学校初となる「卒業研究発表会」を開催しました。

発表者は2年生17名。

昨年のキャブストーンで発見した課題を約2ヶ月間、調査・研究した結果を発表しました。

「研究」とは言え、一般的な大学の卒業研究と比べると極めて短期間です。そこでアカデミックな内容よりも、少しでも実際の現場で即役立つ内容を目指しました。例えば、現場作業時に使用する腰袋（鉋や鋸、工具などを入れる）について、より使いやすいものを提案するというものや、チェーンソーの機種ごとの特徴を調べ、作業時の長所と短所についてまとめるというものなどです。

林業専攻では安全作業に関する内容の発表が多く、林業労働安全という大きなテーマに対して、技術的な改善によって立ち向かっていく意識が見られました。一方、森林公共人材専攻では、地域課題の解決を目標に、和知北部（特に仏主）地域におけるアンケート調査に基づいて、解決策の検討と提案を行いました。公共人材では、技術的な改善ではなく仕組みを変えて（繋がる人々を変えて）課題解決を目指すという姿勢が見られました。



校長室より

『和知に育つ京林大』

2014年3月10日

京都府立林業大学校第1期生卒業。

裸地に草が生え、木が育ち、自然が完成して行く過程を「遷移」、そして裸地に最初に入ってくる植物のことを「先駆植物」と申します。先駆植物が生育すると、その枯れたものが土に混ざったりして、その場所の環境は徐々に良くなり、それに応じてより優れた植物の生育が可能となって、その連続で自然が完成されて行きます。

先駆植物、英語ではパイオニア、すなわち「開拓者」のことです。その働きあってこそその自然の完成です。それは厳しい環境からスタートするのが普通ですが、そのスタートの環境が恵まれていれば、パイオニアはそれだけ有難いのはいうまでもないことです。



林大生 京都府独自の2資格を取得

平成26年3月3日（月）、ルビノ京都堀川で開催された第2回森林・林業・木材産業京都会議で、「高性能林業機械操作士」4名（片山健太、高崎則兎、立石礼、為國祐哉）及び「森林公共政策士」4名（内藤利幸、野間大樹、藤本和磨、船越響）合計8名が資格認定され、知事から認定証が授与されました。



←写真右

京丹波町出身の藤本和磨さん

京都府知事表敬訪問

平成26年2月25日（火）に林大卒業生の代表5名（高崎、立石、為國、武田、岩井）が知事表敬訪問を行いました。知事から卒業を祝すとともに、今後の活躍に期待するとの激励をいただきました。さらに知事は、林業生産に対する施策として林大など担い手対策が大切だが、加えて加工消費が地域内で安定して実施できる体制を整えることが大切と話されました。



京林大第1期生、この先駆者たちは、なんとも幸せでした。地元和知の温かい歓迎という素晴らしい生育環境があったからです。林大歓迎の幟の群・横断幕・お店の張り紙に始まり、地元有志集まっての「林大地域連携協議会」の発足、入学式の郷土芸能や餅つき、卒業式の赤飯、町の施設の利用、下宿等のご協力、学生たちも道で励ましの声を掛けていただいて感激、地元イベントに参加・・・。

第1期生卒業おめでとう。それを育ててくださった地元の皆さん、有難うございます。第2期、第3期と続きます。今後ともよろしく。

（校長 只木良也）

